

共通テスト 見据え受検 松本秀峰5年生が英語の検定



マイク付きのヘッドホンを着け、民間の英語検定試験に取り組む生徒たち

松本市の松本秀峰中等教育学校で12日、高校2年生に当たる同校の5年生約50人が、民間企業が主催する英語の検定試験を受けた。現行の大学入試センター試験の後継として2020年度から実施する「大学入学共通テスト」の英語で、民間の検定試験が導入

されることを前に受験した。

民間検定試験の導入は、センター試験で評価された「読む、聞く」を中心とした英語に、「書く、話す」を加えた4技能を評価する狙いがある。同校は、現在も検定試験の高得点者を入試で優遇する大学があることや、生徒が民

間検定試験に慣れることを目的に実施を決めた。生徒はパソコンの前に座り、マイク付きヘッドホンを着用。画面上に示された地言いたいことを表現するのが難しかった。勉強してもつと表現力を付けたい」と話した。

英語教科を担当する上條智(とち)教諭(31)は、「書く、話す」という能動的な英語が求められている」とした。